

# フランス語学習者の自由会話における動詞使用

## L'utilisation des verbes dans la production orale chez les apprenants japonais en français

小澤 南海

Minami OZAWA

### 1. はじめに

本論文の目的は、日本語母語話者であるフランス語学習者の自由会話に現れる動詞を、動詞の持つ語彙アスペクトの観点を導入しながら分析を行うことである。

時制と語彙アスペクトの観点から、学習者の動詞使用の特徴を分析した研究は散見されるが、主に書き言葉を研究対象としており、話し言葉を対象とした研究は未だ少ない。本論文では話し言葉を研究対象とし、Interphonologie du français contemporain (IPFC)<sup>1</sup>の自由会話データを使用する。

### 2. 語彙アスペクト

#### 2.1. 語彙アスペクトとは

語彙アスペクトの問題を取り上げるにあたって、初めに語彙アスペクトという用語を定義する。定義に関しては Dowty (1979 : 52) を基盤とする。

(...) *aspect* markers serve to distinguish such things as whether the beginning, middle or end of an event is being referred to, whether the event is a single one or a repeated one, and whether the event is completed or possibly left incomplete.

(アスペクトマーカーは、言及された出来事が開始点にあるのか、中間点にあるのか、それとも終点にあるのか、出来事は一度しか起こらないことなのか、繰り返し起こることなのか、そして出来事は完了しているのか、未完了である可能性を残したままなのかという点を区別するのに役立つ。(筆者訳))

本研究では、動詞句が内在的に持つこのようなアスペクトのことを語彙アスペクトと呼ぶ。

#### 2.2. フランス語学習者における時制と語彙アスペクト使用

動詞において重要な要素である時制と、動詞の持つ語彙アスペクトの観点からフランス語学習者の使用動詞の分析を行った代表的な研究を、以下順に挙げる。

<sup>1</sup> 3.2. において詳述する。

### 2.2.1. Bergström (1997)

Bergström (1997) は、英語を母語とするフランス語学習者を対象に、動詞習得過程での語彙アスペクトの影響を明らかにしている。語彙アスペクトの分類には Vendler の四分類を使用し、分類する際には以下の共起テストを使用している (表1)。

表1 共起テスト (Bergström 1997 : 8)<sup>2</sup>

|                               | État<br>(状態) | Activité<br>(活動) | Accomplissement<br>(完了) | Achèvement<br>(瞬間) |
|-------------------------------|--------------|------------------|-------------------------|--------------------|
| être en train de<br>(～している最中) | *            | ok               | ok                      | */△                |
| en X minutes<br>(X分で)         | *            | *                | ok                      | */△                |

\* = agrammatical (非文) ; ok = grammatical (文法上正しい) ; △ = effet ralenti/culmination/sérialisation (スロー効果、終点効果、連続効果)

学習者による、ある映画のワンシーンに関するストーリー・リライティングタスクを基に分析が行われ、複合過去形は活動動詞、完了動詞、瞬間動詞との組み合わせでよく用いられるという調査結果が得られた (Bergström 1997 : 6-7)。一方、状態動詞は概ね半過去形と共に用いられていることが明らかにされている (ibid. 7)<sup>3</sup>。現在形に関しては、学習者は特に状態動詞と共に使用しているという特徴があり、状態動詞を本来過去形で使うべき箇所でも、デフォルトとして現在形を使用していることを観察している (ibid. 14)。

### 2.2.2. Labeau (2005)

Labeau (2005) は、英語話者であるフランス語学習者が使用した時制と語彙アスペクトの関係についての調査・分析を行なっている。具体的方法として、無声映画のあらすじに関するストーリー・リライティング/リテリング、穴埋め問題、容認性判断テストをデータとして使用している (Labeau 2005 : 81)。語彙アスペクトは以下3種類に分類している (図1)。

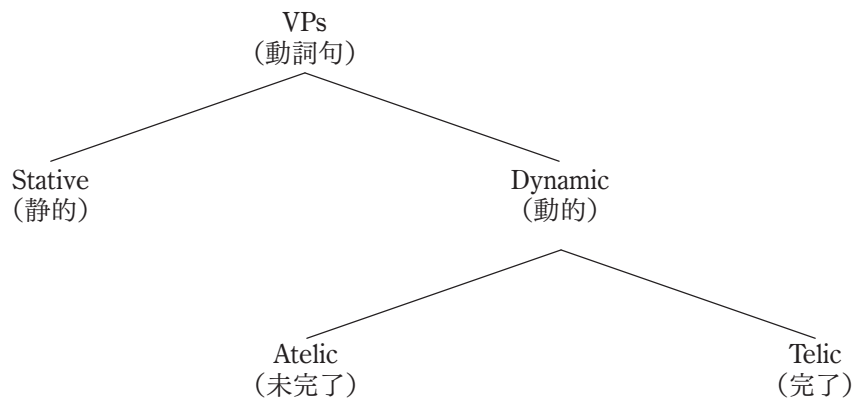


図1 語彙アスペクト分類 (Labeau 2002 : 94)<sup>4</sup>

<sup>2</sup> 括弧内の日本語訳は筆者によるものである。

<sup>3</sup> 例として、活動動詞には parler avec le policier (警察官と話す)、完了動詞には manger une pomme (りんごを食べる)、瞬間動詞には reconnaître un ami (友人に気づく)、状態動詞には être intelligent (頭が良い) が挙げられる (ibid. 10-11)。

<sup>4</sup> 括弧内の日本語訳は筆者によるものである。

静的動詞は、ある出来事の最初から最後まで変化が起きないが、動的動詞は変化が起きるという性質を持つ (Labeau 2002: 94)。動的動詞はさらに、終点の有無によって完了動詞と未完了動詞に分けられる (ibid. 94)。完了動詞句の例に *courir un kilomètre* (1 キロメートル走る) を挙げるが、この動詞句はそれ自体に1 キロメートルという終点をもつ (ibid. 94-95)。一方、走るという行為自体は終点をもたないため、*courir* (走る) のような動詞が未完了動詞となる (ibid. 94)。つまり、Vendler の分類における完了 (Accomplissement) 動詞と瞬間 (Achèvement) 動詞をまとめて完了 (Telic) 動詞と呼び、四分類を三分類へと簡略化している。

Labeau (2005) の研究から、学習者が使用する複合過去形には完了動詞<sup>5</sup>が使われやすい傾向にあることが分かった。このような結果が得られたのは、複合過去形と完了動詞の組み合わせを学習者がよく目にするためと推測している (ibid. 82)。またフランス語初級者はネイティブと比較して、完了動詞を半過去形で多用しているという特徴が明らかになった。例えば *avoir un accident* (事故が起きる) など *avoir* (持つ) や *être* (~である) を用いる完了動詞句が、複合過去形ではなく半過去形で示される傾向にあることが論じられている (ibid. 85)<sup>6</sup>。

### 2.2.3. 松澤 (2014)

松澤 (2014) は、日本語母語話者であるフランス語学習者が使用する、複合過去形と半過去形のそれぞれの時制と語彙アスペクトの組み合わせを分析している (ibid. 37)。語彙アスペクトは Labeau (2005) の分類に依拠して、静的動詞、完了動詞、未完了動詞の3種類に分類している (松澤 2014: 37-38)。データには、テキスト中の動詞の不定法を文脈に適合させる際、複合過去形と半過去形のどちらの時制が適切だと思えるかを判断させる問題を使用している (ibid. 38-39)。その問題には、3種類の語彙アスペクトに対して2つの時制を組み合わせ、6つの回答パターンを用意した。正解率の観点から、複合過去形 (完了時制) と完了動詞 (完了アスペクト)<sup>7</sup>、半過去形 (未完了時制) と未完了動詞 (未完了アスペクト)<sup>8</sup>・静的動詞 (未完了アスペクト)<sup>9</sup>それぞれとの組み合わせは、学習者の得意な組み合わせであることが示された (ibid. 40-41)。一方、半過去形 (未完了時制) と完了動詞 (完了アスペクト)<sup>10</sup>、複合過去形 (完了時制) と未完了動詞 (未完了アスペクト)<sup>11</sup>・静的動詞 (未完了アスペクト)<sup>12</sup>それぞれとの組み合わせは、苦手な組み合わせであることが論じられている (ibid. 40-42)。

### 2.2.4. 小澤 (2018)

小澤 (2018) は上記研究とは異なり、学習者同士の自由会話に基づいて、時制と動詞の語彙アスペクトの使用の関連性を調査し、日本語を母語とするフランス語学習者のフランス語圏への滞在期間別に分析している。語彙アスペクト分類は Labeau (2005) の三分類に依拠している。

<sup>5</sup> 2.2.2. における「完了動詞」は、以下 Telic の意味。

<sup>6</sup> Labeau (2005) は、Kihlstedt (1998) や Howard (2002) を基に、この特徴には半過去形としての *avoir* と *être* を学習者が多く目にするというインプットの影響が関わることを指摘している。

<sup>7</sup> *Nous avons déménagé* parce que nos enfants ont grandi. (子どもたちが大きくなったので、引っ越した。) (ibid. 41)

<sup>8</sup> *Hier soir, vers minuit, j'ai entendu des chats qui hurlaient et qui se battaient*. (昨夜、真夜中頃、猫たちがうなったり、けんかしていたのを聞いた。) (ibid. 41)

<sup>9</sup> *On a ouvert la fenêtre parce qu'on avait chaud*. (暑かったので、窓を開けた。) (ibid. 41)

<sup>10</sup> *Tu sortais la voiture du garage. À ce moment-là, un pneu a éclaté*. (君が車を車庫から出そうとしたら、タイヤ (1つ) がパンクした。) (ibid. 41)

<sup>11</sup> *Je n'ai pas travaillé* de juin à octobre. (私は6月から10月まで働かなかった。) (ibid. 42)

<sup>12</sup> *Il a eu de la chance, il n'a pas payé de loyer pendant deux mois*. (彼は運が良かったので、2ヶ月間家賃を払わなかった。) (ibid. 42)

その結果、第一に、現在形、複合過去形、半過去形が、使用時制の大部分を占めていたことが示された (ibid. 57)。第二に、三時制それぞれに使用された語彙アスペクトとの組み合わせを統計的に調査すると、半過去形においてのみ学習者の滞在期間別で有意差が認められた (ibid. 57)。そして第三に、どの時制と語彙アスペクトの組み合わせにおいても、実際に使用されている動詞の種類やその使い方に差はみられなかったことが明らかになった (ibid. 57)。さらに、時制選択に関するエラーはごくわずかであることも確認された (ibid. 57-58)。しかしながら、小澤 (2018) で得られた結果は頻出動詞の分析に限定されていたため、本論文では使用された動詞全体について網羅的な分析を行う。

### 3. 研究方法

#### 3.1. リサーチクエスチョン

以上の先行研究を踏まえて、本研究では以下二点を明らかにする。

1. 現在形、複合過去形、半過去形は、それぞれどのような語彙アスペクトを持つ動詞と共に使われているのか。
2. 学習者は、ひとつの動詞を複数の語彙アスペクトをまたいで使用しているのか。

調査対象とするのは現在形、複合過去形、半過去形の三時制である。その使用割合は、表2から分かる通り、全体の約8割という大部分を占めているため、調査対象をこれら三時制に限ったとしても、学習者の動詞使用特徴は掴めると考える。

表2 使用時制<sup>13</sup>

| 時制                     | 個数   | 割合     |
|------------------------|------|--------|
| 現在形                    | 810  | 45.7%  |
| 複合過去形                  | 404  | 22.8%  |
| 半過去形                   | 164  | 9.3%   |
| 不定詞                    | 84   | 4.7%   |
| 条件法現在形                 | 10   | 0.6%   |
| 接続法現在形                 | 1    | 0.1%   |
| 命令法現在形                 | 15   | 0.8%   |
| 大過去形                   | 3    | 0.2%   |
| 近接過去形                  | 2    | 0.1%   |
| être en train de + 不定詞 | 1    | 0.1%   |
| 不明                     | 278  | 15.7%  |
| 計                      | 1772 | 100.0% |

#### 3.2. 使用データ

分析を行うにあたって、Interphonologie du français contemporain (以下 IPFC<sup>14</sup>) のデータを使用する。IPFCには様々なタスクが存在するが、本研究では自由会話タスクによって得られたデータのみを使用する。自由会話は、学習者自身が8種類のテーマの中から自由に2種類のテーマを選択し、ペアで行ったものである。提示するテーマは以下の通りである。

<sup>13</sup> 本研究において使用するデータで対象とする事例の範囲については3.3.1. で述べる。

<sup>14</sup> IPFC に関しては以下インターネットサイトを参照 (<http://cblle.tufs.ac.jp/ipfc/>)。

1. 観た映画
2. 読んだ本
3. 訪れた場所（国、町、美術館など）
4. 日本のこと（料理、習慣、生活様式、祭）
5. 日本と他の国の文化的な違い
6. 大切な思い出（子供の頃、家族、学校、旅行、エピソード、最初のフランス語の授業）
7. 現在の話題
8. 新聞などの三面記事

各テーマにつき約10分程度の会話が録音されている。本研究で使用するデータの総録音時間は3時間15分であり、総語数は13640語である<sup>15</sup>。

調査対象者は、日本語を母語とする中級レベル（B1）以上の大学生16名である。その内訳は、1年以上のフランス語圏への留学経験者が15名と、留学経験は1年未満ではあるが中級レベル（B1）以上のスピーチコンテスト優勝者が1名である<sup>16</sup>。

### 3.3. 研究手法

本研究では分析に際して、まずは対象とする事例の範囲を定め、次に語彙アスペクトの分類を行った。それぞれの手順を以下に示す。

#### 3.3.1. 対象とする事例の範囲：時制と構文

時制を分類するにあたって、3.1. ですでに述べたように、現在形、複合過去形、半過去形以外の時制で使われている動詞は全て研究対象外とする。またそのうち、該当する時制ではあるが、*c'est*（これは～である）と *c'était*（これは～であった）は研究対象から除外した。なぜなら、*c'est* の使用は現在形全体のうち約40%、*c'était* の使用は半過去形全体のうち約60% にも及ぶことが確認されたためである。これらも研究対象に含めた場合、結果に偏りが生じる可能性が大いに予測されるためである<sup>17</sup>。

以下、表2中の「不明」に分類したのものに関しても明記しておく。これらは基本的に、時制をはっきりと判断できない動詞である。

- ・繰り返しなどによって時制を判断できない *avoir* や *être*

|   |          |           |
|---|----------|-----------|
| (ex. MI1 <sup>18</sup> - <qu' est-ce que> | tu       | <u>tu</u> |
| 何 -INT      ADVINT                        | NOM.2.SG | NOM.2.SG  |
| <u>as</u> ah                              | tu       | as        |
| AUX.2.SG/IND.2.SG.PRES                    | NOM.2.SG | AUX.2.SG  |
| fait ?)                                   |          |           |
| した -PTCPST                                |          |           |

<sup>15</sup> ah や mh、言いかけ語は語数に含めていない。

<sup>16</sup> 1年以上のフランス語圏への留学経験者には、実質9ヶ月や10ヶ月程度しかフランス語圏に滞在していなくとも、大学の交換留学1年渡航の名目で留学した学生を含んでいる。

<sup>17</sup> 表2中にも *c'est* と *c'était* の個数は含めていない。別途 *c'est* は523個、*c'était* は213個の使用が確認されている。

<sup>18</sup> 各発話文の前に示されるコードは学習者のイニシャルを表す。また、転写記号については本論文末にまとめている。

- 活用ミス

|                   |                        |                      |
|-------------------|------------------------|----------------------|
| (ex. MO2 - [e] j' | ai                     | préfère [je préfère] |
| NOM.1.SG          | AUX.1.SG/IND.1.SG.PRES | 好む -IND.1.SG.PRES    |
| le                | théâtre)               |                      |
| ART.DEF.M.SG      | 舞台 -M.SG               |                      |

- 明らかな語彙選択ミス

|                              |                        |                |          |
|------------------------------|------------------------|----------------|----------|
| (ex. MO1 - on                | a                      | <u>on</u>      | [e] a    |
| PRON.INDEF                   | AUX.3.SG/IND.3.SG.PRES | PRON.INDEF     | AUX.3.SG |
| <u>levé</u> [s'est lavés] la |                        | main ensemble) |          |
| 起こした -PTCP.PST               | ART.DEF.FSG            | 手 -FSG         | 一緒に -ADV |

- 推測不可能な文

|                                |                |               |           |            |
|--------------------------------|----------------|---------------|-----------|------------|
| (ex. HS1 - [coup de glotte] c' | est            | c'            |           |            |
|                                | PRON           | IND.3.SG.PRES | PRON      |            |
| est                            | un             | trois # qu'   | <u>on</u> |            |
| IND.3.SG.PRES                  | ART.INDEF.M.SG | ADJ           | CONJ      | PRON.INDEF |
| <u>a</u>                       | <u>mangé</u> ) |               |           |            |
| AUX.3.SG                       | 食べた -PTCP.PST  |               |           |            |

- 明らかに命令法ではない文脈での主語の欠如

- 主語の後が未活用

- aller (行く) + 不定詞

- aller の後に、言いかけてはいるが、後ろが続いていない文

|                    |                   |                  |          |
|--------------------|-------------------|------------------|----------|
| (ex. YN2 - je      | vais vo-          | ah               | <je      |
| NOM.1.SG           | 行く -IND.1.SG.PRES |                  | NOM.1.SG |
| veux>              | je                | voulais          |          |
| したい -IND.1.SG.PRES | NOM.1.SG          | したかった -IPFV.1.SG |          |
| aller              | à je              | non              |          |
| 行く -INF            | PREP              | NOM.1.SG         | ADV      |

- venir (来る) de の後が続いていない文

|                 |                    |           |
|-----------------|--------------------|-----------|
| (ex. AH1 - elle | <u>vient</u>       | [v:] de # |
| NOM.3.FSG       | 来る -IND.3.SG.PRES  | PREP      |
| elle            | veut #)            |           |
| NOM.3.FSG       | したい -IND.3.SG.PRES |           |

### 3.3.2. 語彙アスペクト分類

次に、語彙アスペクトの分類方法に関して説明を加える。本研究では、2.2.1. に挙げた Bergström (1997) の語彙アスペクト分類を採用する。状態、活動、完了、瞬間という語彙アスペクト別4種類に動詞を分類する際、être en train de と en X minutes という2つのフレーズを使った以下の Bergström (1995) の共起テストを参照する。

状態動詞は文字通り状態を表す動詞で、être en train de と en X minutes と共起ができない。その例は以下の通りである<sup>19</sup>。

- (1) \* Charlot est en train d'être dans la camionnette de police.  
\* シャルロは警察車両にいる最中だ。
- (2) \* Charlot est dans la camionnette de police en cinq minutes.  
\* シャルロは5分で警察車両にいる。

(Bergström 1995 : 57)

活動動詞は、動きはあるけれども終点が含まれていない動詞で、être en train de とは共起可能であるが、en X minutes とは共起ができない。

- (3) Charlot est en train de rêver de la belle vie.  
シャルロは素晴らしい人生を夢見ている最中だ。
- (4) \* Charlot rêve de la belle vie en cinq minutes.  
\* シャルロは5分で素晴らしい人生を夢見る。

(ibid. 57)

完了動詞は、終点はあるけれども瞬間的ではなく継続的な動詞で、être en train de と en X minutes と共起が可能である。

- (5) Charlot est en train de manger beaucoup.  
シャルロはたくさん食べている最中だ。
- (6) Charlot mange beaucoup en cinq minutes.  
シャルロは5分でたくさん食べる。

(ibid. 57)

そして最後に瞬間動詞であるが、これには être en train de と en X minutes のどちらにも共起できないものもあれば、どちらにも共起できるものも存在する。ただし、共起可能であるのは、共起することによって、スロー効果、終点効果、連続効果といった特別な効果が生じるときのみに限られる。例として、apercevoir (気づく) を使った文では、どちらのフレーズとも共起ができない。

- (7) \* Charlie est en train d'apercevoir la jeune femme.  
\* シャルリは若い女性に気付いている最中だ。

<sup>19</sup> 3.3.2. において、全ての例文中の下線と日本語訳は筆者によるものであり、共起テストの説明は Bergström (1995 : 51-59) をまとめたものである。

(8) \* Charlie aperçoit la jeune femme en cinq minutes.

\* シャルリは5分で若い女性に気付く。

(ibid. 58)

しかしながらスロー効果が生じると、以下の通り être en train de と en X minute のどちらとも共起が可能である。スロー効果が生じる文では、être en train de と共起した際、その行為が完了するまでの過程に焦点が当たり、あたかもゆっくりと事態が進展しているような印象をもたらす。また、en X minutes と共起すると、X分以内にその出来事が起きるという意味ではなく、X分経った後に生じるという意味を持つようになる。

(9) La bombe est en train d'éclater.

爆弾が破裂している最中だ。

(10) La bombe éclate en cinq minutes.

爆弾が5分で破裂する。

(ibid. 58)

動詞によっては être en train de と en X minutes が終点効果をもつこともあり、その場合どちらのフレーズとも共起が可能である。このとき、être en train de と共起すると、その出来事の終点が考慮されず、それに繋がる過程のみが表される。en X minutes もスロー効果と同様に、X分経つまで終点は考慮されないことから、スロー効果と終点効果には相通じるものがあるように見受けられる。

(11) Le cheval est en train de gagner la course.

馬がレースに勝利している最中だ。(= 勝利目前だ)

(12) Le cheval gagne la course en cinq minutes.

馬が5分でレースに勝利する。

(ibid. 58)

連続効果においても、être en train de と en X minutes のどちらとも共起が可能である。être en train de と共起すると、同じ内容の別々の出来事が連続して起こっていることのように表される。en X minutes に関しては、スロー効果や終点効果と同様の説明を加えることもできるが、連続して起こっていることのように受け取ることも可能である。

(13) Les invités sont en train d'arriver.

招待客が次々と到着している最中だ。

(14) Les invités arrivent en cinq minutes.

招待客が次々と5分で到着する。

(ibid. 58)

本研究では以上の手順に従い、分析を行う。



## 4. 分析結果

### 4.1. 時制分析結果

本節では、「1. 現在形、複合過去形、半過去形は、それぞれどのような語彙アスペクトを持つ動詞と共に使われているのか」というリサーチクエスチョンに関連した分析結果をまとめる。現在形、複合過去形、半過去形のみを焦点を当て、それら時制とともに使われている動詞を語彙アスペクト別に分類すると、以下のような結果が得られた。表3中の括弧内の数値は生起頻度を表す。

表3 語彙アスペクト割合

|       | 状態             | 活動             | 完了             | 瞬間             | 計               |
|-------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 現在形   | 68.1%<br>(552) | 19.4%<br>(157) | 4.4%<br>(36)   | 8.0%<br>(65)   | 100.0%<br>(810) |
| 複合過去形 | 4.0%<br>(16)   | 34.2%<br>(138) | 37.1%<br>(150) | 24.8%<br>(100) | 100.0%<br>(404) |
| 半過去形  | 86.6%<br>(142) | 9.8%<br>(16)   | 1.8%<br>(3)    | 1.8%<br>(3)    | 100.0%<br>(164) |

表3からは、現在形においては状態動詞とともに、複合過去形においては状態動詞以外の動詞とともに、半過去形においては状態動詞とともに、よく使われる傾向にあることが分かる。統計的にこれを証明するため、状態とそれ以外の語彙アスペクトの生起頻度に分けたクロス集計表(表4)を用いて、カイ二乗検定を行う。

表4 クロス集計表

|       | 状態  | その他 |
|-------|-----|-----|
| 現在形   | 552 | 258 |
| 複合過去形 | 16  | 388 |
| 半過去形  | 142 | 22  |

カイ二乗検定の結果から、生起頻度に有意差が認められた( $\chi^2 = 536.27$ ,  $df = 2$ ,  $p < .05$ )。有意差がどの群間でみられるのか示すために、ボンフェローニ法を用いて多重比較を行った結果、現在形と複合過去形の間( $\chi^2 = 446.08$ ,  $df = 1$ ,  $p < .0167$ )、現在形と半過去形の間( $\chi^2 = 22.634$ ,  $df = 1$ ,  $p < .0167$ )、複合過去形と半過去形の間( $\chi^2 = 396.603$ ,  $df = 1$ ,  $p < .0167$ )という全ての組み合わせにおいて、有意差がみられた。これら3回の多重比較の結果を考慮に入れると、状態動詞は現在形>半過去形>複合過去形の順で多く使用されていることが確認された<sup>20</sup>。

このように、使用動詞における時制と語彙アスペクトの組み合わせに偏りは生じているものの、ひとつの時制は複数の語彙アスペクトにまたがって使用されていることが明らかになった。つまり、ひとつの時制はひとつの語彙アスペクトに対してのみ使用されているわけではない。それでは、ひとつの動詞も複数のアスペクトにまたがって使用され得るのか、次節で明らかにする。

### 4.2. 語彙アスペクト分析結果

「2. 学習者は、ひとつの動詞を複数の語彙アスペクトをまたいで使用しているのか」に関連して調査を

<sup>20</sup> 不等号は、1.67%水準で有意であることを示す。

行くと、複数のアスペクトにまたがって使用されている動詞がいくつか存在することが分かった。その動詞は、以下16種である。

aller, boire (飲む), dire (言う), écrire (書く), faire (する), lire (読む), manger (食べる), marcher (歩く), parler (話す), prendre (取る), sentir (感じる), travailler (働く), trouver (見つける), voir (見る), voyager (旅行する), y avoir (ある)

これらの動詞のうち、3つの時制・4つの語彙アスペクトの計12種類の組み合わせ中、最も多い7種類にわたって使用が確認された動詞が3つ存在した<sup>21</sup>。それは、faire、lire、mangerである。以下、実際の使用例も提示しながら、特にfaireとlireについて順に考察する(表5を参照)。

表5 動詞の分布

|       | 状態  | 活動   | 完了  | 瞬間               |
|-------|---|--|---|------------------|
| 現在形   | aller, dire, faire, lire, manger, marcher, parler, prendre, sentir, voir, y avoir | boire, écrire, faire, lire, manger, marcher, parler, sentir, travailler, trouver, voir | aller, boire, dire, écrire, faire, lire, manger                                     | faire, y avoir   |
| 複合過去形 | faire, marcher  | boire, faire, lire, manger, parler, travailler, voir, voyager                          | aller, boire, dire, écrire, faire, lire, manger, marcher, travailler, voir, voyager | prendre, trouver |
| 半過去形  | marcher, y avoir  | lire, manger, parler, voyager  | dire, lire, manger  |                  |

faireのそれぞれの組み合わせにおいては、以下のような使用が確認された。それぞれの発話文の意味については、各文の下に明記している<sup>22</sup>。

〈状態動詞〉

(1) 現在形

|          |                             |          |          |
|----------|-----------------------------|----------|----------|
| AK2 - il | fait z-                     | très     | très     |
| NOM.3.SG | IND.3.SG.PRES               | とても -ADV | とても -ADV |
| très     | [v/c]_froid (prononcé [fo]) |          |          |
| とても -ADV | 寒い -ADJ.M                   |          |          |
| とても寒い    |                             |          |          |

<sup>21</sup> 前述の通り、複数の語彙アスペクト間での使用が見られる動詞を調査対象とするため、複数の時制間での使用は見られるが全て同一語彙アスペクト内でのみ使用されている動詞については調査に含めない。

<sup>22</sup> [rire]や[claquement de langue]などの転写記号、hm などにはグロスをつけていない。

## (2) 複合過去形

|       |              |                   |              |             |
|-------|--------------|-------------------|--------------|-------------|
| HS1 - | je           | fais              | la #         |             |
|       | NOM.1.SG     | する -IND.1.SG.PRES | ART.DEF.FSG  |             |
|       | j'           | ai                | fait         | la          |
|       | NOM.1.SG     | AUX.1.SG          | した -PTCP.PST | ART.DEF.FSG |
|       | soirée euh # | tous              | les          | week-ends   |
|       | パーティー -FSG   | 毎 -ADJ.M.PL       | ART.DEF.M.PL | 週末 -M.PL    |
|       | 毎週末パーティーをした  |                   |              |             |

## 〈活動動詞〉

## (3) 現在形

|       |  |                           |             |           |
|-------|--|---------------------------|-------------|-----------|
| SM1 - | on   | on [claquement de langue] | on          |           |
|       | PRON.INDEF                                       | PRON.INDEF                | PRON.INDEF  |           |
|       | fait   | on hm                     | la          | grammaire |
|       | つくる -IND.3.SG.PRES                               | PRON.INDEF                | ART.DEF.FSG | 文法 -FSG   |
|       | c'   | est                       |             |           |
|       | PRON   | IND.3.SG.PRES             |             |           |
|       | 文法をつくる（青森の方言では、「来る」という単語が「こ」となるなど、独自の短い言い回しをつくる） |                           |             |           |

## (4) 複合過去形

|       |             |              |        |                     |          |
|-------|-------------|--------------|--------|---------------------|----------|
| RI1 - | à           | [a]_London   | qu'    | est-ce que [v:]_euh | tu       |
|       | PREP        | PROP         | 何 -INT | ADVINT              | NOM.2.SG |
|       | as          | fait ?       |        |                     |          |
|       | AUX.2.SG    | した -PTCP.PST |        |                     |          |
|       | ロンドンで何をしたの？ |              |        |                     |          |

## 〈完了動詞〉

## (5) 現在形

|       |  |                   |            |         |
|-------|--|-------------------|------------|---------|
| AK1 - | je   | fais              | même       | chose   |
|       | NOM.1.SG                                     | する -IND.1.SG.PRES | 同じ -ADJ.SG | こと -FSG |
|       | 〈comme                                       | toi〉              |            |         |
|       | CONJ   | EMP.2.SG          |            |         |
|       | (フランスで日本語の授業に参加したと言う対話者と) 同じこと (経験) をする (した) |                   |            |         |

## (6) 複合過去形

|       |                |                    |           |               |
|-------|----------------|--------------------|-----------|---------------|
| KT1 - | je             | [e]_faire_[fais] # | j'        | ai            |
|       | NOM.1.SG       | つくる -INF           | NOM.1.SG  | AUX.1.SG      |
|       | fait #         | [e]_la_[le]        | gâteau    | japonais      |
|       | つくった -PTCP.PST | ART.DEF.FSG        | お菓子 -M.SG | 日本の -ADJ.M.SG |
|       | 和菓子をつくった       |                    |           |               |

## 〈瞬間動詞〉

## (7) 現在形

|       |             |      |                   |               |
|-------|-------------|------|-------------------|---------------|
| MO2 - | 〈oui [rire] | ça   | <u>fait</u>       | bruit [rire]〉 |
|       | ADV         | PRON | 鳴る -IND.3.SG.PRES | 音 -M.SG       |
|       | (お腹の) 音が鳴る  |      |                   |               |

以上の通り、faire は様々な意味において使用されている。上に挙げた例のみを考慮に入れるとしても、「する」「つくる」「鳴る」という多様な訳語が当てはまり、さらには天気を表すためにも同様に faire が使用される。したがって、faire という動詞の多義性そのものこそ、faire が幅広いアスペクトで使われている理由に他ならないと推測できる。また、faire が半過去形と共に使われている例は皆無であった。その理由には、学習者がとりわけ faire を、単発的に何をするか・何をしたかについて話す場面ではかり用いていることが要因である。「Qu'est-ce que tu as fait ? (何をしたの?)」のような活動動詞としての使用が最も多く見られた。過去に関する発話との関連で付言しておく、例えば上記 (5) の発話では、現在形で faire が使用されているが、過去の出来事についての内容である。なぜなら発話者がフランスに滞在し、日本語の授業に参加したことも過去の出来事である上、(5) の発話のすぐあとに、日本語の授業に出席したという意味で「j'ai assisté (出席した)」という複合過去形を用いているためである。その他にも過去の出来事現在形を用いている発話もあり、煩雑な活用を回避するために、突発的に現在形を使用したことが考えられる。

次に、lire について言及する。lire のそれぞれの組み合わせにおける実際の使用例は、以下の通りである。

## 〈状態動詞〉

## (1) 現在形

|       |                   |      |           |            |           |
|-------|-------------------|------|-----------|------------|-----------|
| HM1 - | combien           | de   | livres    | est-ce que | tu        |
|       | どのくらい -INT        | PREP | 本 -M.PL   | ADVINT     | NOM.2.SG  |
|       | <u>lis</u>        | par  | mois      | par        | mois ?    |
|       | 読む -IND.2.SG.PRES | PREP | 1ヶ月 -M.SG | PREP       | 1ヶ月 -M.SG |
|       | 1ヶ月に何冊本を読んでいるの？   |      |           |            |           |

## 〈活動動詞〉

## (2) 現在形

|       |                   |                   |               |                |
|-------|-------------------|-------------------|---------------|----------------|
| HM1 - | tu                | <u>lis</u>        | un            | tu             |
|       | NOM.2.SG          | 読む -IND.2.SG.PRES | ART.INDEFM.SG | NOM.2.SG       |
|       | lis               | le                | livre         | japonais ?     |
|       | 読む -IND.2.SG.PRES | ART.DEFM.SG       | 本 -M.SG       | 日本語の -ADJ.M.SG |
|       | 本を読む？             |                   |               |                |

## (3) 複合過去形

|       |                                       |          |             |               |          |
|-------|---------------------------------------|----------|-------------|---------------|----------|
| HS1 - | j'                                    | ai       | lu #        | des #         | textes   |
|       | NOM.1.SG                              | AUX.1.SG | 読んだ -PTCPST | ART.INDEFM.PL | 文章 -M.PL |
|       | 文章を読んだ (日本語の授業に出席した際に発話者が行ったことを述べている) |          |             |               |          |

## (4) 半過去形

|       |                         |                  |                |          |          |  |
|-------|-------------------------|------------------|----------------|----------|----------|--|
| AH1 - | je                      | <u>lisais</u>    | un #           | je       |          |  |
|       | NOM.1.SG                | 読んでいた -IPFV.1.SG | ART.INDEF.M.SG | NOM.1.SG |          |  |
|       | <u>lisais</u> #         | le               | livre de       | Haruki   | Murakami |  |
|       | 読んでいた -IPFV.1.SG        | ART.DEF.M.SG     | 本 -M.SG PREP   | PROP     | PROP     |  |
|       | 〈en français〉           |                  |                |          |          |  |
|       | PREP                    | フランス語 -M.SG      |                |          |          |  |
|       | (ボルドーに滞在していたとき) 本を読んでいた |                  |                |          |          |  |

## 〈完了動詞〉

## (5) 現在形

|       |                   |                   |                        |          |  |  |
|-------|-------------------|-------------------|------------------------|----------|--|--|
| HM1 - | tu                | lis               | un                     | tu       |  |  |
|       | NOM.2.SG          | 読む -IND.2.SG.PRES | ART.INDEF.M.SG         | NOM.2.SG |  |  |
|       | <u>lis</u>        | le                | livre japonais ?       |          |  |  |
|       | 読む -IND.2.SG.PRES | ART.DEF.M.SG      | 本 -M.SG 日本語の -ADJ.M.SG |          |  |  |
|       | 日本語の本を読む？         |                   |                        |          |  |  |

## (6) 複合過去形

|       |                          |                    |              |              |      |  |
|-------|--------------------------|--------------------|--------------|--------------|------|--|
| HM1 - | tu                       | <u>as</u>          | <u>lu</u>    | ce           |      |  |
|       | NOM.2.SG                 | AUX.2.SG           | 読んだ -PTC.PST | ADJ.DEM.M.SG |      |  |
|       | livre                    | le                 | livre de     | Zola         | en   |  |
|       | 本 -M.SG                  | ART.DEF.M.SG       | 本 -M.SG PREP | PROP         | PREP |  |
|       | français                 | 〈ou en japonais ?〉 |              |              |      |  |
|       | フランス語 -M.SG              | CONJ               | PREP         | 日本語 -M.SG    |      |  |
|       | フランス語と日本語のどちらでゾラの本を読んだの？ |                    |              |              |      |  |

## (7) 半過去形

|       |                    |                  |                |          |          |  |
|-------|--------------------|------------------|----------------|----------|----------|--|
| AH1 - | je                 | <u>lisais</u>    | un #           | je       |          |  |
|       | NOM.1.SG           | 読んでいた -IPFV.1.SG | ART.INDEF.M.SG | NOM.1.SG |          |  |
|       | <u>lisais</u> #    | le               | livre de       | Haruki   | Murakami |  |
|       | 読んでいた -IPFV.1.SG   | ART.DEF.M.SG     | 本 -M.SG PREP   | PROP     | PROP     |  |
|       | 〈en français〉      |                  |                |          |          |  |
|       | PREP               | フランス語 -M.SG      |                |          |          |  |
|       | フランス語で村上春樹の本を読んでいた |                  |                |          |          |  |

もちろん、lire は全て「読む」という唯一の意味で使用されているが、これらはとりわけ目的語の違いやその有無で語彙アスペクトの違いを生み出している。上記の例では、特に活動動詞と完了動詞を分かつものは目的語のみである。「読む」という行為は目的語が無い場合でも成立するため、その場合は活動動詞に含まれる。上記(3)を例にとると、ここでは文章の分量が明示されていないため、その行為が完了すると捉えることができず、活動動詞に含まれる。一方、定冠詞や指示形容詞が用いられるとその名詞が限定されるため、その行為が完了し得るものになると判断し、完了動詞に含めている。この区別は manger に関しても同様である。

以上提示した例からも分かるように、複数の語彙アスペクトにまたがって使用されている動詞の特徴としては、多義的な動詞であること、目的語をはじめ、動詞の後ろに続くものによって語彙アスペクトが変化する動詞であることが挙げられる。多義的な動詞としては、上に挙げた16種類の動詞のうち、他にも「分かる」と「見る」という2種類の意味で使われていた *voir* などが挙げられる。動詞に後続するものによってアスペクトが変化する動詞には、他にも *boire* を挙げるができる。「*j'ai bu* (飲んだ)」は活動動詞に分類され、「*j'ai beaucoup bu* (たくさん飲んだ)」は完了動詞に分類されるように、副詞の違いでさえもアスペクトが変わり得るためである。

そして、これらの動詞は学習初期段階に習う動詞である。つまり、中級レベル以上の学習者であるにもかかわらず、初級レベルの動詞のみ、語彙アスペクトをまたいで使用しているということである。しかしながらこの点のみを見て、中級レベル以上の学習者は、初級レベルの動詞以外を幅広く使うことができていると断言することは不可能である。なぜなら、中級レベルの動詞は潜在的に複数の語彙アスペクトにまたがり得るのか、また、初級レベルの動詞と比較したときのまたがりやすさの度合いについても、これらのデータからだけでは判断ができないためである。

また、本コーパスの動詞全体において生起頻度が高い上位10種類の動詞と、2つ以上の語彙アスペクトにまたがって使用されている動詞16種類の関連は以下の通りである(表6)。

表6 動詞の生起頻度<sup>23</sup>

| 動詞             | 個数  |
|----------------|-----|
| <i>être</i>    | 126 |
| <i>aller</i>   | 99  |
| <i>y avoir</i> | 90  |
| <i>dire</i>    | 72  |
| <i>savoir</i>  | 67  |
| <i>manger</i>  | 60  |
| <i>avoir</i>   | 58  |
| <i>parler</i>  | 57  |
| <i>aimer</i>   | 54  |
| <i>penser</i>  | 45  |

合計182種類の動詞が本コーパスに現れており、その頻度数上位10種類のうち下線部5種類が2つ以上の語彙アスペクトにまたがって使用されている動詞である<sup>24</sup>。生起頻度の高い動詞が複数の語彙アスペクトにまたがりやすいという傾向はうかがえるが、生起頻度が2の *sentir* や、3の *trouver* と *prendre* など、生起頻度が少なくとも複数の語彙アスペクトにまたがる動詞は確かに存在するため、必ずしも生起頻度と複数の語彙アスペクトへのまたがりやすさが比例するとは言いきれない。

## 5. 結論

以上の分析結果を踏まえつつ、リサーチクエスチョンに沿った結論へ移る。リサーチクエスチョン1「現在形、複合過去形、半過去形は、それぞれどのような語彙アスペクトを持つ動詞と共に使われているのか」に関しては、使用されている時制と語彙アスペクトの組み合わせに偏りは見られたが、ひとつの時制

<sup>23</sup> これまでに示していない動詞の訳を付記する。*savoir* (知る)、*aimer* (好き)、*penser* (思う)。

<sup>24</sup> *vouloir* (～したい) や *devoir* (～すべきだ) などの準助動詞は、後ろに続く動詞の種類によって、分けてカウントしている。

に対して、ひとつの語彙アスペクトでしか使われていないわけではないということが分かった。リサーチクエスチョン2「学習者は、ひとつの動詞を複数の語彙アスペクトをまたいで使用しているのか」に関しては、複数の語彙アスペクトにまたがって使用されている動詞も散見されたため、必ずしもひとつの動詞に対してひとつの語彙アスペクトで使用しているわけではないことが分かる。このように、複数の語彙アスペクトにまたがった動詞の使用には、必ずしも動詞の生起頻度が比例するわけではなく、むしろ動詞の多義性や、動詞の目的語が動詞に与える影響の関連が考えられる。

## 6. おわりに

語彙アスペクトの観点から動詞使用分析を行うための今後の課題は、各動詞が複数の語彙アスペクトにまたがる潜在的可能性について探求していくことである。また、学習者言語を分析するにあたっては、ネイティブのデータと比較することや、学習者の受容に大きな影響を与える教科書に現れる動詞の調査も視野に入れるべきである。

本研究で扱ったデータの中で、3番目によく使用されていた *y avoir* に関しては特に、「*il y a eu un accident* (事故が起きた)」など、瞬間動詞としての表現もあるにもかかわらず、ほとんどが状態動詞としての使用に限られていた。もちろん、産出機会が無かったという可能性も否定することはできないが、このような表現は、授業中になかなか取り上げられにくいことも一因であると考えられる。授業中に、あるいは教科書で主に取り上げられていない表現についても、学習者にインプットの機会を与えることは重要なことである。したがって、学習者に生の言語データとしてネイティブのコーパスに触れさせてみることも、学習者が多様な表現方法を獲得するためのひとつの手段である。

## 参考文献

- Bergström, A. (1995) *The expression of past temporal reference by English-speaking learners of French*, Ph. D. thesis, The Pennsylvania State University.
- Bergström, A. (1997) “L’influence des distinctions aspectuelles sur l’acquisition des temps en français langue étrangère,” <http://journals.openedition.org/aile/1315> (2017年12月11日閲覧).
- Dowty, D, R. (1979) *Word meaning and Montague grammar: The Semantics of Verbs and Times in Generative Semantics and in Montague’s PTQ*, Dordrecht: Reidel.
- Labeau, E. (2002) *The acquisition of French past tenses by tutored anglophone advanced learners: Is aspect enough?*, Ph. D. thesis, Aston University.
- Labeau, E. (2005) “Beyond the Aspect Hypothesis: Tense-aspect development in advanced L2 French,” *EUROSLA Yearbook*, 5, pp. 77-101.
- 小澤南海 (2018) 『日本人フランス語学習者の発話における時制使用』, 修士論文, 西南学院大学.
- 松澤水戸 (2014) 「フランス語における複合過去と半過去の使い分け—語彙アスペクトを用いた分類—」, 『ロマンス語研究』, 47, pp. 37-45.

## 転写記号一覧

| 記号                        | 意味  |
|---------------------------|---|
| <.....>                   | 相手の発話の遮り                                    |
| [e]_... [xxx]             | エラー<br>後ろの [ ] 内には本来あるべき単語<br>が示される         |
| #                         | 沈黙  |
| [v:]_...                  | 母音の引き伸ばし                                    |
| [v/c]_...(prononcé [xxx]) | 母音と子音の発音の誤り<br>後ろの ( ) 内にはどう発音されたか<br>が示される |
| [a]_...                   | 英語  |
| [coup de glotte]          | 喉の鳴る音                                       |
| [claquement de langue]    | 舌打ち   |
| [rire]                    | 笑い声   |

## グロス記号一覧

1 : 一人称 / 2 : 二人称 / 3 : 三人称 / ADJ : 形容詞 / ADV : 副詞 / ART : 冠詞 / AUX : 助動詞 / CONJ : 接続詞 / DEF : 定 / DEM : 指示 / EMP : 強勢 / F : 女性 / IND : 直説法 / INDEF : 不定 / INF : 不定詞 / INT : 疑問 / IPFV : 半過去 / M : 男性 / NOM : 主格 / PL : 複数 / PREP : 前置詞 / PRES : 現在 / PRON : 代名詞 / PROP : 固有名詞 / PST : 過去 / PTCP : 分詞 / SG : 単数